中島ヤス先生の思いを継いで、今できること

学校法人旭学園理事長　内田信子

命短し恋せよ乙女～

これは１９１５年（大正４年）に流行した「ゴンドラの唄」の冒頭のフレーズです。映画監督黒澤明の代表作「生きる」の中で、末期癌に侵されながらも困難の末、児童公園を完成させた市役所の課長（演者・志村喬）が、最期の時に満足げにこの歌を口ずさむ名シーンによって、多くの人の記憶に残ることになりました。

しかし今、命が短いとはとても言えなくなりました。日本人の平均寿命は男性 81.05 歳　女性 87.09 歳。国内で１００歳を超えるお年寄りは１０万人に達しようとしています。第二次世界大戦敗戦後すぐの１９４７年の日本人の平均寿命が男性５０．０６歳　女性は５３．９６歳であったことを思えば、長寿社会がいかに早いスピードで進んだかわかるでしょう。高校生の皆さんは「私はそんなに長く生きないわ」と思うかもしれませんが、ちょうど皆さんが生まれた頃、2007 年生まれの子供の半数は 107 歳まで生きるとする研究結果も発表されています。

スピードが速いと言えば、IT の進化は驚くばかりです。OpenAI が２０２２年１１月に公開した人工知能ロボット ChatGPT は１年ほどの間にバージョン４となり世界最速でユーザー数を増やしています。アメリカの人工知能研究の世界的権威、レイ・カーツワイルは、AI が人間の脳と同じレベルに達する時期、シンギュラリティは２０４５年と予想しています。私たちを取り巻く環境の変化には驚くしかなく、人生が長いとなると、皆さんが経験する世界は、これまでとは全く違ったものになるはずです。

そんな中、今年の冒頭、あたりまえの日常は、あたりまえではなく、一瞬で変わってしまうのだと気づかされる災害がまた起きてしまいました。能登半島地震です。２００人以上の方が亡くなり、２万人近い方達が避難生活を強いられています。土砂崩れで家屋が崩壊し、妻と子供４人を１度に亡くした男性がインタビューに答え「今までいた人が次の日にはいないと思ったら苦しいですよ。みんな子どもいなくなって。何で私がこんなことにならないといけないのかなと」と声を振り絞りました。被災された方々のことを思うと胸が締め付けられるようです。

人生は長いけれど、一瞬先に何が起きるのかはわかりません。実は文頭に掲げた「命短し恋せよ乙女」に作詞家が込めたのは「若い時は短いのだから恋をしなさい、若いと言う時間を輝いて生きなさい」という思いだと言われています。人生は長いけれど若い時間は短い、だからこそ「若い時間を悔いなく生きなさい」。おせっかいに思えるかもしれませんが、これは皆さんよりも長く生きた大人からの愛をこめたメッセージです。

もう一つ、おせっかい。こうした急速に変化する時代を生き抜くためには、ではどうしたらよいのかということです。私は「学び続ける」ことだと考えています。学校という学びの場が提供される時間は短く、学校でだけでなく、成人になってからも、更に学び続けなければ変化のスピードについていけません。

旭学園は２０２６年、佐賀県武雄市に四年制の大学「武雄アジア大学」を開学予定です。「順和・礼譲・敬愛・奉仕」という旭学園の学園訓に添い、多様性、国際性、地域連携、平和を創学の柱に加える予定です。

よく「少子化の中、なぜ今そのような挑戦をするのか」と問われます。ですが佐賀には四年制の大学が２つ、短大も３つしかなく、全国で大学の数が最も少ない県です。このため、四年制大学に行くためには県外に出るしかないのが現状です。自宅から通えれば進学できるのにと、経済的な理由で諦めた生徒を多く見てきました。佐賀県の四年制大学の進学率は４割にとどまり、女子は４割を切っています。大学進学率が６割を超える日は近いと分析されています。高校生の半数以上が四年制大学に進む時代がすぐそこに迫ってきているのです。学校法人として今、何が出来るのか。近くに大学があることは、学びたいと言う願いを叶える後押しになるはずと、大学創設を決断したのです。「学び直し」、教育の世界では「リカレント」と言いますが、成人して新たな知識を得、ステップアップしたいと願う人向けの場も多く設けるつもりです。旭学園の生徒・卒業生には更に手厚い支援をしたいと考えています。

私が６年前に理事長になった時、「全ては子ども達のために」という抱負を掲げました。子ども達、そして地域のために出来ることがあるならば、まずはやってみる。それは１２７年前に中島ヤス先生がこの学園を始められた時の思いに立ち返るということです。子ども達に「夢」を持てというだけでなく、大人も「夢」を見てもよいではないか。その実現のために全力を尽くす姿を見せることも教育ではないのか。家塾から旭学園を興された中島ヤス先生の姿が、私の背中を押しました。

しかし、その「夢」の実現は多くの方たちの力添えがなくては成りません。どうか、生徒の皆さん、新たに旭学園の仲間に加わる「武雄アジア大学」に進学する、あるいは大学で学び直すという「夢」を持って下さい。保護者の皆さま、卒業生の皆さまにはご理解と熱いご支援をお願い致します。